

木曽三川だより

<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/>

国土交通省中部地方整備局
木曽川下流河川事務所

管内NO.143 2016. 11

「木曽三川下流部 広域避難実現プロジェクト」の設立

木曽川下流河川事務所では、大規模水害時における犠牲者をゼロとなることを目指し、木曽三川下流部沿川の5市町（桑名市、木曽岬町、弥富市、愛西市、海津市）と、平成25年に「木曽三川下流部 高潮・洪水災害広域避難検討会」を設立し、平成27年には、広域避難実現に向け取り組むべき内容等を記載した「木曽三川下流部 高潮・洪水災害広域避難計画策定に向けたアクションプラン」をとりまとめたところです。

アクションプランの策定により、取り組みを着実に実施し、広域避難を実現していく新たなステージに移行したことから、はん濫域にある3市町村（津島市、蟹江町、飛島村）を新たに加え、8市町村による広域避難実現に向けた組織「木曽三川下流部 広域避難実現プロジェクト」を平成28年10月18日に設立し、その第1回の会議を開催しました。



会議の状況

【第1回 実施概要】

- 日時：平成28年10月18日 15時～17時
- 場所：愛西市文化会館
- 参加機関：桑名市、木曽岬町、弥富市、愛西市、
海津市、津島市、蟹江町、飛島村
＜コーディネーター＞中部地方整備局河川部
木曽川下流河川事務所
- アドバイザー：
群馬大学広域首都圏防災研究センター長・教授
片田 敏孝氏



設立写真

※左から 飛島村長、蟹江町長、津島市長、弥富市長、愛西市長、群馬大学 片田教授、桑名市長、木曽岬町長、海津市長、中部地方整備局 河川部長、木曽川下流河川事務所長

「木曽三川下流部 広域避難実現プロジェクト」では、3市町村拡大に伴うアクションプラン等の拡充を図るとともに、各市町村による取り組みの発信や、市町村の枠を越え地域全体で検討すべき内容に関する意見交換を行うことで、地域社会における社会的気運の醸成を図りつつ、適時・的確な広域避難の実現に向け、広域避難計画を策定していくこととしています。

第1回木曽三川下流部 広域避難実現プロジェクトの会議資料等は、下記のホームページでご覧いただけます。

http://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/takashio_kouzui_kentoukai/index.html

石井国土交通大臣が、^{げんろく}源緑河川防災ステーション現場を視察

平成 28 年 10 月 8 日（土）午後 3 時頃、石井国土交通大臣が木曽川源緑河川防災ステーションの工事現場（受注者 信藤建設株式会社）を視察しました。

当現場では、ICT 建設技術を統合する取り組み『i-Costruction（建設現場の生産性向上に向けて、測量・設計から、施工、さらに管理にいたる全プロセスにおける情報化）』を活用して工事を行っています。具体的には、無人航空機（UAV:ドローン）を使った空中写真測量や出来型管理、3次元設計データの作成、マシンコントロール（MC）ブルドーザー等による施工、全地球航法衛星システム（GNSS）搭載の振動ローラによる締固め回数の管理等の ICT 建設技術を活用した盛土施工です。これらの取り組み状況について、飯野木曽川下流河川事務所長等が大臣に説明を行いました。

大臣からは、工事受注者へ「色々な工事で i-Construction を是非活用してください。現場の方の給料・休暇・希望(新しい3K)の推進もお願いします。」と激励の言葉がありました。



（主な視察概要）・i-Costruction の概要及び取組状況を説明。UAV、MC バックホウ、MC ブルドーザ、GNSS 振動ローラのデモンストレーション状況を視察。

- ・MC バックホウ、MC ブルドーザには、大臣が試乗体験。（大臣はMCブルドーザに初試乗。）
- ・i-Costruction について、大臣、木曽岬町長、信藤建設(株)社長、中部地方整備局長の懇談。

三重県四日市中央工業高校の生徒が源緑河川防災ステーションを見学

平成 28 年 10 月 26 日（水）、一般社団法人 三重県建設業協会が主催する「高校生建設現場見学会」で三重県四日市中央工業高校の生徒（都市工学科 1 年生）が、木曽川源緑河川防災ステーションの工事現場（受注者 信藤建設株式会社）及び、木曽川鍋田上水門工事現場（受注者 戸田建設株式会社）を見学しました。

源緑防災ステーションの現場では、生徒たちがマシンコントロール搭載用のブルドーザ及びバックホウの運転席に搭乗して操作の体験を行いました。

当日、熱心に見学する高校生への三重テレビや FM 三重放送による取材も行われました。また、取材を受けた弥富出張所長は、「新しい技術を見て、建設関係の仕事に関心を持ってもらいたい。」と答えました。



南海トラフ巨大地震に備えて実動訓練を実施！（地震被災調査訓練）

10月31日に、巨大地震を想定した地震・津波防災訓練を実施しました。

午前中は、シェイクアウト（地震が発生した直後にその場の状況に応じた「安全確保行動」を身につけること）及び避難訓練を行い、午後からは、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）に備えて屋外にて実動訓練を行いました。

訓練会場1（揖斐川右岸6.8kp付近）、訓練会場2（木曽川下流河川事務所）に分かれ、訓練会場1では演習堤を被災した堤防と仮定し、法面崩落箇所及びクラック箇所の損傷の確認や測量等の被災調査訓練を行いました。

訓練会場2では、衛星通信装置（Ku-SAT）の立ち上げ（組立）から映像受信訓練及び災害対策車両の照明車の操作訓練を行いました。



大規模地震時に速やかな災害復旧や被災地支援が可能となるよう、職員の災害対応能力の向上をしていきます。



平成28年度「川と海のクリーン大作戦」が開催されました！

平成28年10月23日（海津市は10月16日）に、「川と海のクリーン大作戦」が実施されました。

この活動は、伊勢湾沿岸及び主要河川における住民と行政との「協働管理」を目的として、平成11年から毎年行われています。

朝早くからご参加頂いた皆さんは、自治体・企業・自治会も併せて木曽三川下流部総勢935名。小学生やご家族での参加も多数あり、地域で河川を守るという意識を持って頂けていることに大変心強く、また嬉しく感じました。



＜海津市南濃町海津橋付近＞



＜桑名市多度町二郷橋付近＞

約1時間ほどの清掃活動で、木曽三川下流部全体で2tトラック換算約13台分のゴミを回収することができました。回収した量は前年より1割程度減少し、河川を大切にしようという心がけて下さる皆さんが年々増えていると感じられました。ご参加頂いた方からも「去年よりゴミが少ない」というご意見を頂戴しました。ご協力頂き本当にありがとうございました。

今後とも河川美化活動にご理解、ご協力をお願い申し上げます。



NPO法人木曽三川ごみの会「第300回定期清掃」が行われました

《郷土の川、木曽三川をきれいに・美しく》

NPO法人木曽三川ごみの会（市川茂理事長）の定期清掃が1月1日で300回目となる節目を迎えました。

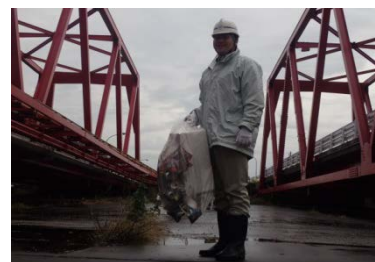
同会は、平成9年頃から町や川にゴミが年々増えているのが気になっていた旧長島町の地元仲間が声を掛け合い長島駅前、河川敷などで清掃活動に取り組みだしたのが始まりです。

平成18年にNPO法人として認証を受け、主な活動は、不法投棄防止のための地域パトロール、毎月1日と15日の河川内定例清掃活動を実施するなど、「郷土の川、木曽三川をきれいに・美しく」を合い言葉に、木曽三川の自然・環境を守るため、木曽三川地域で発生する廃棄物の不法投棄防止、地域の環境保全を推進する活動を展開しています。定期清掃には同会メンバーと木曽川下流河川事務所職員をはじめ河川に関わりのある各種団体も参加しています。

第300回定期清掃は、7時30分から約1時間、揖斐川左岸2kP付近（R23号揖斐長良川大橋下流）において、参加者86名で行い、90Lごみ袋90袋、葎、灌木等大型土嚢袋9袋を回収しました。



〈漂着した葎、灌木等の大型土嚢袋の回収〉



〈90Lごみ袋いっぱいの回収ゴミ〉

雨の中第300回清掃活動に集まった参加者ら



《木曽三川ごみの会会員の方々へ事務所長感謝状の授与》

当団体は、平成22年に花と緑の愛護に顕著な功績のあった民間の団体におくられる「みどりの愛護」功労者 国土交通大臣表彰を受賞されています。

今般、当事務所では、活動を支える会員ひとりひとりの方々が、河川環境の保全に著しく貢献し、その功績は誠に顕著であるとして、深く感謝の意を表すため、個々の方々に感謝状を授与いたしました。

この活動は、パトロールや河川内清掃を毎月2回、約20年間にわたり続けられております。本当にありがとうございます。



「木曽三川だより」問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局 木曽川下流河川事務所
〒511-0002 桑名市大字福島 465 TEL0594-24-5711 FAX0594-21-4061